

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 24 年度】

[追跡評価]

	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
6	<p>皮革の多品種小ロット染色技術の開発</p> <hr/> <p>皮革工業技術支援センター</p> <hr/> <p>平成 20 年度 (1 年間)</p>	<p>皮革用ドラムを使用せずに、浸透性を向上させた染色条件を用いて、数色の革を小ロットで染色可能にする技術開発を行った。その結果、界面活性剤を所定量添加した染料溶液を用いて、芯通し染色が可能となった。この成果を元に企業との研究を続け、牛革のみならず馬革でも多品種小ロット染色が可能で、革財布等も製品のまま染色できることを確認した。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業との共同研究により着実に研究が進展している。 兵庫県の皮革産業の生産性向上につながる技術である。 市場はあるので、研究に意味はある。 日本製の革製品のため、がんばっていたきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛、馬以外の皮革にも対応できれば活用の幅が広がると思う。 地場産業支援のため、今後も研究を進めてほしい。 生産性向上による低コスト化には限界があると思われる。他でまねのできない高品質な製品化のための技術開発も考えたいかがが。 他の企業への波及と海外への技術流出防止についてどのように考えるかが課題。
7	<p>エレクトロスピンング法による糸製造技術開発</p> <hr/> <p>繊維工業技術支援センター</p> <hr/> <p>平成 20 年度 (1 年間)</p>	<p>生成するマイクロ・ナノ繊維を集積・延伸し、引張強度に優れた紡績糸（マルチフィラメント）を製造できる電界紡糸技術を確立。高強度で細い高機能な産業資材用繊維素材の生産が可能となる。県内企業に当該技術の普及や啓発を行い、播州繊維界をはじめ、医療やエレクトロニクス分野の新製品開発を支援する。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発技術を応用しながら、実用化、製品化に向けた取組につながっており成果として評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維に付加価値をつける応用を広げることで、早期実用化を実現できると思う。 技術の適用可能性について、大量消費財用、付加価値の高い工業材料用の双方で実用化に向けて努力してほしい。 当該技術の更なる改善を期待する。 企業への技術提供を進め、実用化を推進してほしい。 技術の公表にあたり、技術流出防止についても考えてほしい。

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 24 年度】

[追跡評価]

	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
8	低コスト・短納期・高品質で環境にも対応した織物試作システムの開発 繊維工業技術支援センター 平成 18～20 度 (3 年間)	先染織物である播州織の試作では染色工程とタテ糸の整経工程に多くの時間がかかる。そこで多数の糸を同時に染色しマイクロ波加熱で乾燥する染色技術の開発と、複数の色糸を同時に繋ぎ換える装置によるタテ糸を整経する技術を開発し、低コスト、短納期、高品質を実現する織物試作システムを完成させた。当該システムにより整経工程の自動化を進め整経コストを 1/3 に、納期を 1/6 に短縮化した。	【達成】 ・研究目的が明確であり、成果は高く評価できる。 ・目標をクリアーし、一定の成果を得ている。 ・研究成果を実用化、具現化できるのか懸念がある。 ・業界ニーズに合致し注目される独自の技術であり、有効活用されることを期待する。 ・小ロット、短納期生産に対応できたことはすばらしい。国内の繊維産地からの見学も多く、期待される。	・低コスト版を制作し、広く活用してもらえようしてほしい。 ・県内企業に導入できるよう努力してほしい。 ・実際、企業が導入できるシステムを考えれば、需要も増え、普及すると思う。 ・効果が客観的にわかるようアピールしてほしい。 ・試作品の生産にとどまらない、新しい織物製品の生産への利用を検討されてはどうか